



不登校の児童・生徒の実態と その対応について

木村 博(公明党)



問 不登校の児童・生徒の実態とその対応について。

答 不登校の児童・生徒は年々増加。不登校対策チームは個に応じたケース会議を定期的に行い、具体的な支援策を立てた。不登校の未然防止、児童・生徒、保護者への支援につながった。

問 旧星宮小にある教育支援センターの役割は。

答 教育相談、教職員研修、適応指導教室、早期療育事業、ステップ教室などを運営。

● JR行田駅前広場周辺再整備について

問 複合施設の進捗状況は。

答 18者にヒアリング調査を実施したが、進出に意欲ある企業はなかった。複合施設の具体的な整備内容などについては今後の課題である。

● 水道水のPFAS検出状況等について

問 本市の水道水のPFASの検出状況は。

答 令和3年度から検査を実施し安全性を確認しており、市のホームページに掲載して情報提供している。



郵便料金の値上げ 新たな古代蓮公園の活用

香川 宏行(令和研究会)

● 郵便料金の値上げについて

問 本年10月からの郵便料金値上げについて、市の捉え方や、財政負担への対応は。また、郵便に代わる方策はあるか。

答 市では、住民の方に対し、様々な個人宛ての通知を郵便により通知しているため、今回の値上げの影響が懸念され、今後の対策や方向性等を検討する必要がある。また、経常経費の増加が危惧されるため、郵便種別の変更や、LINEや電子申請届出サービス、電子メールの活用等、郵便を利用しない手法での住民への通知や照会を実施し、郵便料金の削減を図り、併せて財源の確保に努めていく。

● 新たな古代蓮公園の活用

問 古代蓮公園のさらなるにぎわいの創出に、キックバイクレースの開催はいかがか。

答 キックバイクレースは大変人気のあるイベントであり、駐車場の広いスペースがあることや、閑散期における新たな集客要素の一つとして、調査研究してまいりたい。



人口減少問題とこども政策について

小林 淳一(令和研究会)



問 今後の人口推移に関し、市長の思い、考えについて。

答 さきの4月下旬に本市は、今回も消滅可能性自治体に分類されてしまったが、改善の兆しも出てきている。

転入転出に伴う人口の動きは、令和4年度には転入超過に転じ、令和6年度もこれまでの行田にはなかった規模の転入超過が続いている。

人口社会増の決め手と言える交通の利便性向上を図るため、国道17号熊谷バイパスの高規格化と市内インターチェンジ設置の早期実現を国に対して働きかけ、乗合型Aーオンデマンド交通などの次世代交通地域公共交通システムを導入し、地域公共交通の整備を強力に推し進めていく。

また、子育て支援や教育の充実、企業誘致などの開発促進を積極的に進めることが、人口減少の抑制、消滅可能性自治体からの脱却につながるものと考えます。

市民の皆さんと課題や将来像を共有し、一緒に新しい行田へと歩んでまいりたい。